

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 電話3399-2196

合唱の素晴らしさ

校長 香西 雅斗

先日の体育大会は、真夏を思わせる日差しの下で行われましたが、今は科学と自然の散歩みちで、ハナミズキが紅葉し寒桜（小葉桜）が咲き始めました。冬が駆け足で近づいてきているようです。

体育大会の次の週の金曜は、生徒たちの手による「制服・私服の話し合い」と3年生の活躍する場面が続きました。そして今日は音楽発表会です。



<寒桜の花は小さくて白い>

さて音楽発表会のポイントは何でしょうか。昨年「体育大会の個人種目は自由参加なのに、なぜ合唱は全員参加なのか」という生徒の声がありました。

体育大会は「自分で決め“挑戦”し“貢献”することの素晴らしさ」が一つのポイントです。もう一つは全員リレーや学年種目を通し「みんなで取り組む中で“勝つことよりも大切なもの”をつかむ」ことでした。

やるからには勝利を目指すのは当然です。そしてリレーや大ムカデなどの学年種目では、運動が得意な者だけで競技すれば、有利になります。しかし、どのクラスもそうはしません。生徒たちはすでに「勝つことよりも大切なもの」を、はっきりと言葉にはできないかもしれませんが、もっているのです。

合唱のポイントは「誰一人として不要な人はいない」だと思います。

歌が上手な人が集まった合唱が素晴らしいかという、必ずしもそうはならない。声がぶつかり合い、とても聞けない演奏になることもある。逆に一人一人は、音程が不安定だったり、固い声だったり、弱々しかったりと欠点があるのに、みんなで歌うと素敵なハーモニーを奏でることもあるのが、合唱の不思議さだ。

練習を重ねていくにつれ、各パートの声がまとまってきて、まるで一人の声の様に聞こえてくることがある。軸になる声はあるが、その人の声の欠点が消え、深みのある豊かな声が響いてくる。

人の体は共鳴器。自分の声が隣りの人の体を震わせ、自分も周りの声によって震える。口を開き、リラックスし吸う息と吐く息をそろえていくと、周りの人や他のパートの声が自分の体で響き始める。

響き合うのは音だけではない。心を開き、リラックスしていると、相手の気持ちが自分の心に響いてくるし、自分の思いも周りに響いていく。たくさんの人の色々な声が重なれば重なるほど、一人一人の欠点が消えて響き合い、誰一人として不必要なメンバーなどいないことが自然にわかってくる。そして、多くの人の思いが響き合うことによって、みんなの思いが一つになっていく。人と人との関係のあるべき姿とエッセンスが味わえるからこそ、合唱は素晴らしい。（昨年度の10月号より）

素晴らしい合唱というチャンスを生かし、心を開き、お互いを響かせ合い『心のハーモニーが響く中瀬中』を作っていきましょう。

制服と私服について考えを深める

10月15日（金）に、生徒会役員会の主催で「これからの中瀬中にふさわしいのは制服か私服か」についてみんなで考え深めるグループワークを、体育館で組別に、1～3年生が混ざって行いました。1・2年生からは3年生のリーダーシップに憧れる声が寄せられました。

<p>1 C 前原 鈴</p> <p>一つの考えだけではなく、反対意見も考えながら発表して、両方の考え方を大切にしながら話し合いが進んでいたので深く考えることができました。</p> <p>3年生が話し合いを進めてくれたので、自分も気兼ねなく意見を言うことができました。先輩方と関わる機会が少なく、心配だったが、さすが中瀬の先輩だなと思える場面がたくさんあった。</p>	<p>1 D 加藤 彩乃</p> <p>この活動こそ理想の生徒像に近づく一歩だと思います。</p> <p>3年生は、意見に対して、自分の意見や、疑問などを積極的に発しているいいなと思った。</p> <p>2 B 種元 煌士</p> <p>異学年で交流をして、結構沈黙が続いてしまったが3年生がちゃんと仕切ってくれたので成功させることができました。（感謝しています）</p> <p>私のグループは全員制服派だったので同じような意見が多くていましたが、それぞれちゃんと考えていていいと思った。</p> <p>特に1年生がしっかりしていたので凄いなと思った。</p> <p>2 D 高苗 美羽</p>	<p>1 A 井上 珠里</p> <p>いつもなら、うまく自分の気持ちや意見が言えないのに、先輩方のおかげであまり緊張せずに言えました。</p> <p>先輩方の意見は、レベルが高く、中瀬中生として恥じない着方や、中瀬中を大事にする考えが伝わってきて、とても尊敬できました。</p> <p>私も、このような先輩になりたいと思いました。</p> <p>3年生は、1年生の意見よりも柔軟な思考をしていた。「なるほど」と思うことが何度もあった自分が気づかなかった点からの考え方をしていたとても良い一時間だった。</p> <p>1 D 中村 伊吹</p> <p>1年の純粋な考え、3年の大人な考え、こんなにも違うのにびっくりした。</p> <p>3年生は、意見に対して、自分の意見や、疑問などを積極的に発しているいいなと思った。</p> <p>2 B 種元 煌士</p> <p>異学年で交流をして、結構沈黙が続いてしまったが3年生がちゃんと仕切ってくれたので成功させることができました。（感謝しています）</p> <p>私のグループは全員制服派だったので同じような意見が多くていましたが、それぞれちゃんと考えていていいと思った。</p> <p>特に1年生がしっかりしていたので凄いなと思った。</p> <p>2 D 高苗 美羽</p>
--	---	--

<p>1 C 前原 鈴</p> <p>一つの考えだけではなく、反対意見も考えながら発表して、両方の考え方を大切にしながら話し合いが進んでいたので深く考えることができました。</p> <p>3年生が話し合いを進めてくれたので、自分も気兼ねなく意見を言うことができました。先輩方と関わる機会が少なく、心配だったが、さすが中瀬の先輩だなと思える場面がたくさんあった。</p>	<p>1 D 加藤 彩乃</p> <p>この活動こそ理想の生徒像に近づく一歩だと思います。</p> <p>3年生は、意見に対して、自分の意見や、疑問などを積極的に発しているいいなと思った。</p> <p>2 B 種元 煌士</p> <p>異学年で交流をして、結構沈黙が続いてしまったが3年生がちゃんと仕切ってくれたので成功させることができました。（感謝しています）</p> <p>私のグループは全員制服派だったので同じような意見が多くていましたが、それぞれちゃんと考えていていいと思った。</p> <p>特に1年生がしっかりしていたので凄いなと思った。</p> <p>2 D 高苗 美羽</p>	<p>1 A 井上 珠里</p> <p>いつもなら、うまく自分の気持ちや意見が言えないのに、先輩方のおかげであまり緊張せずに言えました。</p> <p>先輩方の意見は、レベルが高く、中瀬中生として恥じない着方や、中瀬中を大事にする考えが伝わってきて、とても尊敬できました。</p> <p>私も、このような先輩になりたいと思いました。</p> <p>3年生は、1年生の意見よりも柔軟な思考をしていた。「なるほど」と思うことが何度もあった自分が気づかなかった点からの考え方をしていたとても良い一時間だった。</p> <p>1 D 中村 伊吹</p> <p>1年の純粋な考え、3年の大人な考え、こんなにも違うのにびっくりした。</p> <p>3年生は、意見に対して、自分の意見や、疑問などを積極的に発しているいいなと思った。</p> <p>2 B 種元 煌士</p> <p>異学年で交流をして、結構沈黙が続いてしまったが3年生がちゃんと仕切ってくれたので成功させることができました。（感謝しています）</p> <p>私のグループは全員制服派だったので同じような意見が多くていましたが、それぞれちゃんと考えていていいと思った。</p> <p>特に1年生がしっかりしていたので凄いなと思った。</p> <p>2 D 高苗 美羽</p>
--	---	--

グループワークは生徒会役員会のリーダーシップで進行しました。（これまでは司会を山之内さん達にお願いしていましたが、今回は生徒が自分達だけで行う、初の挑戦です）

まず生徒会役員から



<p>3年生が話し合いを進めてくれたので、自分とは違う意見の人もいたけれど、反論という形で、意見を出すこともできた。</p> <p>1年生もちゃんと自身の意見を出すことができていたので、話を進めてくれた3年生がいてくれてよかったと思う。</p> <p>2 C 長元 慧悟</p>	<p>3年生が話し合いを進めてくれたので、自分とは違う意見の人もいたけれど、反論という形で、意見を出すこともできた。</p> <p>1年生もちゃんと自身の意見を出すことができていたので、話を進めてくれた3年生がいてくれてよかったと思う。</p> <p>2 C 長元 慧悟</p>
---	---

「制服と私服のどちらがいいか、便利か、楽か、を話し合うわけではありません。中瀬生として生徒みんなで決めた『理想の生徒像』にのっとって、『これからの中瀬中にふさわしいのは制服か私服か』についてみんなで考え深めていくことが目標です。」



<生徒会役員が作成したビデオ>

という狙いが示されました。次に、夏休みに集めた生徒の意見をもとに、生徒会役員が行ったパネルディスカッションのビデオが発表されました。

パネルディスカッション1 「私服派の主張とそれに対する意見」の概要	
<p><論点1></p> <p>「目指すのは多くの問題を皆で考え解決する中瀬生。私服で起こる課題を自ら考え成長する高いレベルを目指す。」</p> <p>↑「解決にはルールが必要。でもルールが増えると自由ではなく、窮屈な生活となるのではないか。」</p> <p>「確かにそう。でも、ルールで縛るより、生徒一人一人がレベルの高い行動を、高い意識で行えるようになりたい。」</p>	<p><論点2></p> <p>「私服にすることで個性を出せる。伸び伸びと生活し、充実した中瀬中となる。」</p> <p>↑「個性は、人柄や行動、考え方で個性は発揮できる。それに制服なら学校全体での景観を出せる」</p> <p>「もちろん人柄や行動も大切だが、服装も大切だと思う。」</p>

：久しぶりに多学年とのグループワークができてとても楽しかった。

：普段は外部の人がきて司会を行っていたが、今回は役員が中心となっていて動画まで用意されていて驚いた。また動画では私服派制服派の内容や意見が簡潔にまとまっていたとてもよかったです。

3C 池田 瑛斗

：中瀬に三年間もいるからその気づけないところを、学年を超えて話すことで気づけた。

：理想の生徒像は、外から自分たちを見た時に、シンボルとなり、周りから見たときのまともや団結感を感じられるから、制服のほうがいいんじゃないかと思った。

3A 山崎 虹智華

：今回は他学年と交流することで、普段関わる同級生とは違う考え方を取り入れることができ、お互いに学べ、刺激を受けることができた。

：また、一・二年生が制服派・私服派だけでなく、これからの中瀬がどうあるべきか真剣に考えていることが分かった。

3D 内藤 早希

：一人ひとり、たくさんの意見が出てより深く考えることができ、校則・服装を変えていくということの難しさと大きさが分かった。

：自分のグループはみんな制服派で、その中でもいろいろな意見が出てきた。

：一年生の子から、中学に入るときに制服が楽しみだったと聞き二年生の子も共感して聞いてそういう気持ちにも気づけた。いい交流会だった。

3C 富樫 美咲

：私服の方が確かに個性を出せるが、あまりお金をかけられない場合もある。

：その場合、個性を出せないのかというところではない、と気づいた。

：これから中瀬生が、伸び伸びと個性を発揮できる学校を目指すうえで、私服という安易な方法をとる必要はないと思う。

：むしろ、制服などの制限がある中でいかに自分を出していくのかが将来の力になると思う。

：「口ナに限らず、これからの時代、どうにもならない「制限」はある。制限を緩くするのではなく、制限の中でいかに工夫し広げていくのかが目指すべき中瀬だと考えた。

3B 西山 明里



：自分は最初私服が良かったと思っていたが、3年生の「私服だと団体感がない」という意見を聞いて意見が変わった

：自分が考えなかったこともありいい機会だと思った。

2D 山崎 一真

：全学年で、「服装は学校の象徴」という共通の認識があったので、慎重に考えていきたい。

：私服で出た課題の解決が、厳しい規制に繋がらないためには、生徒一人一人が意識をもって行動できるかが鍵になる。

：これはタブレットのルールと同様で、始めに大まかなルールを作って、それを実践し生徒のレベルを試していく中で、出てきた課題にどのように対応するかが重要になってくる。

：生徒自らが課題と向き合ったり、そもそも大きな課題を生まないよう、自分で許容範囲を見極めて行動することが、これから目指す主体性のある中瀬生に求められることだと思う。

：しかし、タブレットの使い方などで前例がある通り、今はまだ生徒の認識に違いがあり、意識の差がみられる。

：だからこそ、理想の生徒像をしっかり理解し、中瀬が目指すべき姿は何なのか、そのための自分はどうあるべきなのかを生徒みんなで再確認し、共通の目標をもって、理想像に照らし合わせながらルールを決めるべきだと思つた。

2C 小野 桐佳

：個性の出し方だったり、私服と制服が周囲に与える影響についてなど異学年と議論することができた。

：制服でも、クラスメイトや友達と会話をするうちに個性は見えてくるのではないかと、清潔感を保つて、個性を表現することはできる、という意見も出た。

：制服の利点は団結感と、礼儀正しさが出せるという意見も多くあった。他にも、制服は小学生や小さい子の憧れで、中学では着たいという意見もあり、自分の考えもしいような意見も聞くことができて価値のある時間にできた。

2A 内池 美緒

：最初の意見は私服だったが、映像(パネルディスカッション)や、話し合いを通して意見が変わっていった。

：他学年、初対面の人に意見を言う事を避けていたのでも緊張した。

：3年生はさすがだと思つた。制服派の意見も取り入れて聞くことができ、意見が変わっていった。

2C 堀内 まなみ

：私服の方が仲間意識ができるという意見があったけど、小学校の時、服が友達と被って気まずくなったり、私服のセンスで陰口を言われている子もいたりした。争いが起きない方がいいと思つた。

1A 森 ころろ

：私服だと、その人の雰囲気やイメージが伝わりやすいという意見にとっても共感した。私服は個性を出すとともにその人の人柄が出る、コミュニケーションに大切なことの一つであることに気づいた。

：一方、集団意識を高めること、團結するために制服で形から入ることで理想の生徒像にも近づけるのではないかと、と思つた。

：自分では気づけない制服派の意見を聞くことや、同じ私服派の意見の中にも新しい発見があり、学びの深い話し合いになった。

：話し合いをしたことで、私服か制服かどちらかに決めなくてもいいのではないかと考えるようになった。

：行事の時は制服、体育はジャージ、普段は私服。と選べる制度があってもいいのではないかと、と思つた。

2C 宗末 莉央

『完全に私服だけ』の意見は少なく、大まかには『中瀬生の服を作り、その着方についてのルールを考えていく』方向性があります。これを受けて、地域・保護者・教職員で検討していきます。

<お知らせ>3年生は11/4(木)と25(木)に、2クラスずつ、下井草子育てプラザで、赤ちゃんとの交流学習を行います。

続いて1・2年生の声を紹介します。

ここで生徒会役員より「個人の個性を出すことと学校のまとまり」「個性を出すとはどういうことなのか」について、グループ（1・2・3年混合）になって考えを深めてください」という指示で、1回目のグループワークが始まりました。



10分ほどの話し合った後、もう一つのパネルディスカッションのビデオを見て。その後にもう一回グループワークを行いました。

パネルディスカッション2 「制服派の主張とそれに対する意見」の概要

<p><論点1> 「中瀬中が目指しているのは、みんなで力を合わせて、行事、学校を作っていくこと。だから全員で同じ服を着ることで、中瀬中を意識し、団結感を生み出せる。」 ↑「服装は表面的。中身が伴わない団結は意味がない。私服は、心に向き合う真の団結につながる。」 「確かに、形だけではだめ。だから形から入り、そこから相手のことを知って団結。」</p>	<p><論点2> 「地域から、あって良かったと思われる中瀬中でありたい。制服は、地域の方に中瀬生の礼儀正しさを伝えられる。」 ↑「私服でも、挨拶や会釈で礼儀正しさは伝わる。私服でもだらしがなければ、マイナス。」 「確かにその通り。ただ最初に目に入るからこそ制服。」 <論点3> 「私たちが決めた理想の生徒像は、制服と言う形があった方が、引き継ぎやすい」</p>
--	--

グループワークを通して生徒が考えた事を3年生から紹介します。



「個性を出すために私服にするという手段もあるが、制服でも髪型などで個性を出せる」という意見や、「統一感も大事だけど、私服でより明るく華やかな中学校も現代の社会に合っている」という意見に納得させられた。
一人ひとりが考えることが大切だと思った。
3A 深川 桃加

：学年により異なる視点から話し合うのは、面白くて新鮮だった。
地域との関わりや実用性、個性、今多くに取り上げられている多様性など、多角的に事物を見た意見があり、学校の在り方について考えさせられた。
また、団結感や礼儀正しさではなく、小学生が私服だったことから、純粋な憧れという視点も面白かった。
3C 長谷川 優

：パネルディスカッションをもとに、学校の景観や、イベントでの統一感がある制服がいいとなった。
それに加えて、今日はどのようにしたら中学生らしくできるかや、理想の生徒像についての他学年の意見を聞くことができ、共有もできて、制服、私服以外でも楽しく話し合えてよかった。
3A 對馬 慧

：私服もいいが、どこまで許可するかが問題だと思う。例えば肩の出る服やお腹の出る服はいいのだろうか。
：制服にいくつかのパターンを用意するということもあつた。例えば女子のリボンの色や柄を複数用意したりするのだ。
：私服派の意見が個性を出すことにあるならば制服のまま個性を出すことができないのかを検討することも大切だと思う。： 3C 中野 睦月

：今の時点でルールや規律を守れていない人がいるのに、私服だともっと増えると思った。また、女子と男子でルールが違つと、混乱してしまふと思った。
制服で団結力が生まれるかはわからないけど、統一感はあるから行事の時にカッコよく見える。
小6から中1になる時に、私服だと気持ちが変わらなくて、メリハリがつけられないと思う。
3A 大森 優羽

：私は私服派だったが、異学年と話し合いを深めることによって、制服でも防寒着の有無などで十分個性が出ることや、小学生主に女子は中学の制服を楽しみにしていることに気づけた。
後者の意見は一年生が出してくれたものであり、小学生が一番近い学年だからこそ出せた意見なのではないかと思う。
学年も考え方も違う人と話すことで、自分の考えを発展させたり、新たな観点から物事を考えられることを学ぶことができた。3C 佐藤 若奈

：「私服にしたらすべてが許されるのか？」という意見があつた。
例えば、制服でジャケットの前は閉めるルールがあるが、私服ではどうか。「それは個性を出すことなのか、そうではないのでは？」と自分じゃ掘ることのできなかった考えまでたどり着くことができた。
：多様な意見をまとめ、細かな問題をなくしていくのに欠かせないものだと思う。
3C 古川 菜々美

：他学年と話し、普段自分が考えている事と違う、新しい考えを得られた。「理想の生徒像のシンボル」をテーマで話した時、中瀬中生はきちんと校則を守れると言った後輩がいて、入学半年なのに、その様なことが言える事に驚いた。
自分の意見をただ伝えるだけでなく、他の人の意見をしっかりと取り入れることで、自分では気づかないことにも気づくことができた。
3B 和田 朋佳

：私服は個性が出るという意見しか思いつかなかったが、異学年グループワークを行って、一年生から、「私服は趣味が出るだけで、個性ではないのではないか」という意見が出た時、なるほどと、僕も学ばされました。3A 小田 朱理河